

2021年度 JLS の会 — 卒業生が語る図書館の仕事 —

2021年度のJLSの会では、卒業生の中から、新人とベテランの図書館員に、それぞれの職場と担当業務の紹介をしていただきました。
(2021年10月30日にオンラインと学内のハイブリッドで開催)

篠崎 まりあ さん

(2021年短期大学部日本語コミュニケーション学科卒業/
都内公共図書館勤務、図書館流通センター所属)



1. 勤務館の様子

私は業務委託の形で働いています。職員は、図書館勤務の職員と、図書館流通センター（TRC）の社員の二つの構成になっています。TRCの社員が約30人で、主な業務は利用者対応、資料提供、施設案内です。図書館勤務の職員は約30人で、主な職務は図書館の運営です。

私が勤務している図書館は地域の中心館で、最も蔵書数が多い図書館です。外国図書、ビジネス図書、文学、録音図書などをそろえています。子ども向けの子ども図書室、中学生、高校生向けのティーンズルームの他、地域の偉人などの特集コーナーなどが設けられています。また、目の不自由な方に拡大写本や録音図書を多くそろえています。図書館の大きな特徴として、返却された本は返却された館に所蔵

されます。ICタグのオン・オフで資料の貸出と返却を管理し、書庫は自動出納書庫を採用しています。

図書館の開館時間は月曜日から土曜日まで、祝日を除く午前9時から午後9時まで開館しています。休館日は館内整理日の毎月第3木曜日、年末年始と特別整理期間も休館です。貸出件数は、一般図書は20冊まで、貸出期間は2週間です。

館内は、主に一般書架、子ども図書室、ティーンズルームに分けられています。カウンターは総合カウンターと、貴重資料庫とレファレンスのカウンターがあります。当館では予約資料は予約資料ルームに置かれ、利用者が直接、引き抜けるようになっています。

2. 実践女子大学短期大学部を選んだ理由と就職活動

入学したきっかけは、純粋に本に興味があったので、当時の出版編集コースにひかれて入学しました。出版編集コースでは、日本語とコミュニケーション関係を軸に、出版編集や図書館学もバランスよく学ぶことができます。さらに、いろいろな資格を取得する機会が設けられていたことも魅力でした。

私は実践女子大学短期大学部で学ぶうちに、本が人に影響を与える面白さを知り、図書館で働きたいと自然に思うようになりました。そして、都内の公共図書館でアルバイトをしていくうちに、営利目的ではなく、純粋に図書館のサービスを提供する姿勢が自分の性格にとっても合っていると感じたため、最終的に図書館での仕事を選びました。

図書館関係の履歴書を送ったのは4件ほどです。

一般の求人サイトで探して応募しました。2月頃に図書館流通センターの就職が決まり、短大卒業までアルバイト、就職後はフルタイムで働き始めました。

3. 担当している仕事の内容

(1) 開館・閉館業務

開館10分前、5分前、1分前にカウントダウンしながら開館していきます。これは緊張する場面です。パソコン等の電源立ち上げや、新聞装備や設置も行います。閉館業務では、閉館の音楽が鳴り始めると、リストごとに電源を落として施錠します。

(2) 予約業務

予約はカウンターで受け付けています。予約受取館の変更、予約の削除もカウンターで行います。取り置き期限は1週間ですが、期限延長もできます。

たまに、予約したい資料に関して具体的なことが分からない利用者の方もいます。その場合は統合検索を行います。購入または他地域の図書館からの借用を依頼できるリクエストサービスも行っています。

(3) 貸出・返却業務

貸出業務では、カウンターでの貸出や返却して再び貸し出す再貸出、貸出期間を延長する貸出延長、他区から借りる資料の相互貸借を行っています。図書カード忘れの際に、利用者の身分を確認して資料を貸し出すことも業務の一つです。返却業務では、カウンターでの返却、ブックポストからの返却、汚破損本の処理を行います。ひどい場合は利用者に弁償してもらう処理があります。

ブックポストは1時間ごとに返却本を回収し、本の中身を1冊ずつ確認して返却します。1時間ごとに指定されたフロアに滞在し、書架に戻す本を配架します。予約本を取り置いている部屋や棚を整理する業務も行います。

(4) 利用者登録業務

新規登録は、身分証明書を確認し、必要な書類を記入してもらい、図書カードを作ります。図書カードの紛失や破損した際の再発行も行います。電話番号や住所は、身分を確認したときに変更になっている場合が時々あるので、登録内容の変更処理をします。当館では図書カードの有効期間は2年間です。

(5) カウンター業務

カウンターでは、主に資料の貸出や返却・再貸出の受付、イベント申し込みの受付、館内資料の予約

対応、資料の一時取り置き、延滞時の対応、他の図書館からの搬送便対応を行っています。IC タグを検知するゲートにエラーが出たときの対応、拾得物の対応もあります。また子ども室のカウンターでは、ブックスタートの本の受け渡しも行います。

(6) 帳票業務

予約した本の回収作業は、実際に書架に行って資料を集めて来て、レシートを発行します。見つからなかった資料については検索し、数日探しても見つからない資料は不明処理を行います。自動出納書庫からの入庫・出庫の管理も行います。予約資料のキャンセル作業とは、リストを出力し、出てきた資料を本棚から集めて処理する作業です。

(7) その他の業務

レファレンス業務は、カウンター、または書架、電話にて問い合わせがある場合に対応します。レファレンスに該当する内容は、用紙に記入し、図書館側でデータ入力をして管理しています。

その他に、本の修理やブックカバーをする装備、ブックスタートのセット作り、新聞装備があります。事務業務には、書誌作成の委託、リサイクル本の処理、弁償資料の受入、資料装備、寄贈本の処理があります。相互貸借業務では、依頼館に資料を送る作業があり、梱包・仕分け・箱詰めを行います。受入をする場合は資料の検本をし、汚れがないかチェックします。

各設備や施設案内業務もあります。OPAC や図書館のホームページ、パソコンコーナー、国会デジタルや複写サービス、データベース、コピー機の案内や管理を行っています。

4. 一日の仕事の流れ

勤務の時間帯は、早番と中番、遅番に分かれています。早番は8時半から出勤、退勤は午後5時、中番は10時半出勤で、退勤は午後7時、遅番の出勤は12時45分、午後9時15分退勤の流れになります。

5. 図書館の仕事のやりがい・苦労している点

簡単な本の案内でもとても感謝されることがあります。利用者の反応が良いので、もっとここをこうしたい、伝えたいと思えるのでとてもうれしいし、その瞬間にやりがいを感じます。一つ一つの業務に慣れてくると、同じことの繰り返しなので淡々とし

た作業が多くなります。改善して効率を上げていくうちに、一つ一つの業務が楽しめるようになってくるので、働くことが楽に、楽しくなっていきます。

初めのうちは業務を覚えるのは大変でした。一度にいろいろな業務を同じタイミングで覚えていかなければいけないので、身に付くまでは少しつらいと感じるかもしれません。他に、電話対応で、図書館の予約方法が分からない利用者、なかなか説明しても伝わらないことがあり、苦勞を感じることもあります。

6. 在校生へのメッセージ

同じ都内の図書館であっても、商業施設に隣接している、市役所と同じ建物内など、さまざまな特色があります。その図書館ごとに求められるニーズが違ってくることもあります。就職の第一歩として、応募する前に現場に足を運び、ここで働くとしたらという目的意識を持って知識を取り込むことをお勧めします。また、どのような職場であってもつらいことはあります。覚えるまでは、まず1週間頑張ろう、1カ月頑張ってみよう、3カ月頑張ってみようと諦めずに粘ってもらえれば、時間の経過とともにいつの間にか慣れていきます。前を向いて進む気持ちが社会に出て大切なことだと、今は実感しています。

原 香寿子 さん

(1989 年家政学部被服学科卒業／東京大学附属図書館勤務)



1. 就職までの経緯

東京大学総合図書館に勤務している原香寿子です。卒業後、母校に関わる事がほとんどなかった不義理な私に、本日、このような機会をいただき、

大変緊張しています。

在学中に図書館司書課程を履修し、卒業時に図書館司書試験を受験しても勉強不足で不合格だと思ったので、アルバイトをしていました。平成3年の国家公務員2種図書館学を受験して合格し、東京大学に採用されました。現在は東京大学総合図書館の図書館情報管理課に勤務しています。

平成元年に卒業したとき、舞台衣装をテーマに卒業論文を書き、そのときにお世話になった劇団で1年間アルバイトをしていました。その次の年に公務員試験を受験しましたが不合格だったので、翌年1年間アルバイトをした後、合格しました。必ず図書館で仕事ができる所に就職したいと思い、図書館の専門職の試験がある所を受験しました。

現在の国立大学は国立大学法人に変わっているので、就職当時は国家公務員でしたが、現在は国家公務員ではありません。試験も、関東甲信越地区国立大学法人の職員採用試験に変わっています。

2. 勤務館の概要

東京大学は学内に30の図書館、あるいは図書室があります。多数の図書館を全部まとめて東京大学附属図書館と呼んでいます。職員数は、附属図書館を合わせて常勤、非常勤職員が300名程度です。30年ぐらい前は600人といわれていたので、定員や予算削減で職員も削減されてきました。蔵書数は、昨年度(2020年度)の統計では全学で985万冊です。

東京大学総合図書館は、本郷キャンパスの拠点図書館の位置付けで、全学で一番大きな図書館です。最初は1877年、東京大学の創設時に医学部・工学部・文学部という三つの学部それぞれにあった図書室を東京大学の図書館としていました。数年後に東京大学附属図書館という建物が建てられていましたが、関東大震災で全焼してしまいました。燃える図書館から本を投げて避難させる様子は、ジブリの『風立ちぬ』という映画にも登場します。国内外から資金や資料の寄付を受け、昭和3年、現在の位置に東京大学総合図書館が建設されました。

東京大学総合図書館の蔵書数は130万冊です。全学にサービスするとともに、学内の図書館間の調整機能も担っています。現在の職員数は、東京大学総合図書館は55人、座席数は1000席です。昨年秋に2012年に計画が始まった改修工事が終了し、現在は

リニューアルオープンしたばかりです。

3. これまで担当してきた業務

平成3年に採用されてからは10の部署に携わりました。初めに文学部の図書室に配属されました。4年間に在籍中の3年間は和書（日本語・中国語・韓国語）を担当していて、そろそろ中国語の目録をとっていいでしょうと言われていたときに異動になり、中国語は1年余りしかとっていませんでした。

次に異動したのは、東京大学総合図書館の情報管理課雑誌受入係です。ここでは総合図書館の雑誌と、東京大学全体の外国雑誌の受入をしています。外国雑誌は、各図書館で契約するよりも、まとめて契約する方が価格交渉できる強みがあります。

その後、工学部の化学生命図書室に異動しました。常勤職員が私1人、非常勤職員が1人の2人だけで、サービスや管理、図書の発注業務全般を行いました。

次は、情報基盤センターのデジタルライブラリー係に異動になりました。情報基盤センターは、大学内の教育用計算機センターの管理や、学内のネットワークを管理する部署です。平成13年から15年ぐらいなので、インターネットが社会に普及し始める時期でした。レファレンスツールや無料公開のものなど、どこにどのようなサイトがあり、そこではどのような情報を得ることができるのか等を収集していました。図書の目次をデータベースに追加する作業もしていました。

その後、総合図書館に戻り、総合利用係に配属され、他大学からコピーや本を取り寄せる ILL 業務に従事しました。次は、総合図書館情報サービス課の利用者サービス係になりました。

続いて、六本木の政策研究大学院大学図書室に3年間出向しました。ここは学生の7割ぐらいが留学生で、しかも修士で1年間しかいないという特殊な環境でした。英語を頑張らなければいけないと特に思った3年間です。最後の年に東日本大震災があり、開館中に「皆さん、本が落ちてくるので頭を守ってください」と大声で叫んだ記憶があります。留学生は地震にあまり慣れていないので、皆、おびえていると心配していましたが、棚から落ちて床一面に散らばった本を、留学生が次から次に写真を撮りに来

ました。得難い経験というにはシリアスですが、いろいろな経験ができた時期でした。

その後、東京大学に戻り情報管理係に配属になり、東京大学の和雑誌全体の契約と、総合図書館の雑誌の受入業務に従事しました。続いて管理課の中で異動し、Web of Science や Citation Index など、全学で使えるデータベースの契約を担当しました。

その後、情報サービス課に異動し、総合図書館の改修業務をメインに行いました。現在は、再度情報管理課に戻って、専門員というポジションになりました。管理課全体の総務、他課との調整、他部局と所管室との調整等の業務を行っています。

これまでの業務の中で印象的だったものは、総合図書館の情報管理課のデータベースの契約担当業務です。全学で使えるデータベースを契約するときは、各部局から学生の人数や先生の数に応じて、東京大学学術基盤整備共通経費という予算を出してもらい、その共通経費で契約をしています。その契約業務の流れで、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の業務を行う機会もありました。交渉作業部会では、例えば海外の大きなデータベースを販売しているエルゼビアやシュプリンガー・ネイチャー等と、日本の JUSTICE の参加大学の契約金額をもう少し下げることができないか、もう少しお得なパッケージはないか交渉していました。この業務は、他の大学の図書館員とのつながりもでき、雑誌などが毎年値上がりする事情を知ることができます。世界中の研究者の皆さんに読んでほしいので、無料で読めるよう、オープンアクセスの形で出版の交渉も行います。出版や学術の動向に触れることができ、とても面白い仕事だったと感じています。

東京大学総合図書館の改修計画に関わる仕事にも就きました。東京大学総合図書館は、文系の資料が多い図書館です。文系の本はそれぞれの学部で所蔵され、学部の図書室や先生の研究室には本があふれています。そこで総合図書館の前に地下40メートルぐらいの穴を掘り、自動書庫を設ける別館が新築されました。耐震的に問題があった本館の改修工事も行い、アジア研究図書館という新たな施設を設置しました。視覚障害者等のための資料の電子化業務も担当していたことから、改修計画の際、点字ブロックの位置、非常警報装置を点滅するタイプへの

切り替え、車いすのためのトイレの設計等にも関わることができたことは、とても大きな経験でした。

4. 改修後の総合図書館の様子

1階の記念室は、歴史的な価値ある建物として、創建当時の姿を取り戻すことを改修の目的のひとつにしています。昭和30年代の工事のときに、開架書架や閲覧室を増やす意図でふさがれていた入口の大階段上の吹き抜けを、今回の工事で復元しました。

東京大学の知的資産を発信する空間をつくるという目的でオープンエリアを設けました。研究成果の発表や図書館の珍しい資料を飾るためなどに使用できる空間です。また多様な学習スタイルに対応する空間として、別館地下にライブラリープラザという、大きな部屋を設けました。本当はにぎやかにトークやディスカッションをしながら使用してもらいたいのですが、コロナの関係もあり、今は割と静かな部屋になっています。同様に、本館にもプロジェクトボックスと呼ぶさまざまな大きさの個室があります。

別館の自動書庫には、コンテナが目いっぱい詰まっていて、そこに本を入れていきます。これからは総合図書館の本だけではなく、各部局からも本を集めてくる予定です。アジア研究図書館は4階です。象徴的な天井は創建当時のデザインのもので

保存書庫は、関東大震災後に寄贈された膨大な図書を中心に、保全に注意を要する資料を保管するための書庫です。18世紀の資料等も手に取って借り出し可能な改修前の環境は、学習研究的には良かったのですが、資料の保存的には問題があるといわれており、今回の改修で環境を整えました。

新着雑誌・新聞閲覧室は、書庫の一部の天井を抜いて改装しました。広々としていて、ゆったり雑誌を読んでもらいたい部屋です。3階の大閲覧室は、創建当時の内装を復元し、静かに勉強をしてもらう、オーソドックスな図書館のイメージの閲覧室です。

ECCS ルームは、大学の教育用計算機システムのパソコンが並んでいる部屋です。1人で行うプレゼンテーションの練習や、語学の勉強ができる防音ブースは、新たに設けた部屋です。

5. 仕事のやりがいや苦勞、在校生へのメッセージ

東京大学の総合図書館で働く苦勞としては、組織的な問題はどこに配属されてもどうしても付いてきてしまいます。各部局の図書館室を集め、まとめて附属図書館と呼びます。それぞれの部局でテリトリーを守ろうとするとところや、人の融通がきかない、予算は一つではない等いろいろな問題もあります。

サービス関係の仕事は最前線なので、やりがいはとてもあるし、利用者と直接接するので、利用者からの反応も直接返ってきます。直接返ってくるので面白さもありますが、クレームもあります。現在配属されている情報管理課は、バックヤードの仕事になります。目録作成や本の装備、出版社とメールのやりとりなどをし、ほとんど歩かない仕事です。利用者や直接接する機会はありませんが、教員の方からの要望を受けて反映することがあります。バックヤードの管理課の仕事も非常にやりがいはあります。このデータベースをこの値段で契約をしてくれてありがたいと言われることは少ないですが、「非常に便利で研究に役立ちました」と、大変うれしい言葉をもらうこともあります。

実際に図書館で働くということは、本が好きということはもちろんですが、人と接することが好きなこともとても大事な側面だと思っています。そうは言っても、普段は利用者や資料と接しない管理課のメンバーが、例えば展示の企画のために古い資料を出してくると、やはり目の輝きが違います。もともと本が好きの人が集まっていると感じますが、現在は、図書館は本だけではなく、情報処理やシステムの仕事も広くあります。これまで手書きで1枚ずつ目録のカードを書いていた仕事は、コンピューターで全国の図書館員がつながって情報を共有するようになっています。カウンターサービスの仕事も、アウトソーシングで外部の業者に委託する図書館も出てきています。

大学図書館の魅力としては、アカデミックな場に身を置けることに間違いありません。図書館が変わるということだけではなく、大学自体も良くも悪くも大きく変わっているので、とても刺激的です。黙々と本を整理しているだけの退屈な仕事というイメージとは、だいぶ違うと思っています。いろいろ刺激的な仕事だと思うので、興味がある方はぜひトライしてもらいたいです。（構成：須賀千絵）

卒業生の著作紹介

山花 郁子

『コロナ時代を生きる 九十歳 記憶の糸車』

オリオン出版 2021年

著者の山花郁子さん(実践女学校・専門学校・大学1950(昭和25)年度卒業、大学にて1970(昭和45)年司書教諭資格取得)は、調布市図書館司書、調布市公民館長を務め、勤務の傍ら、多くの児童文学作品、児童書の紹介、エッセイ等を発表されました。退職後の現在も、執筆活動を活発に続けておられます。昨年刊行された、山花さんの最新刊『コロナ時代を生きる 九十歳 記憶の糸車』をご紹介します。

この本の前半では、コロナ禍での著者の日常生活が語られています。原稿の執筆を続けたこと、興味をもった事柄をすぐに調べたこと、これまで対面で実施していた子どもへの本の紹介を急遽録画収録したことなど、コロナ禍でさまざまな制約がある中でも、つきることのない好奇心、平和を大切に思う

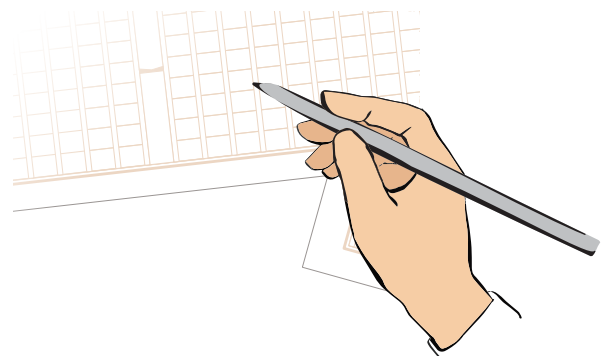
心、子どもたちへのあたたかな視線をもって日々を送ってこられたことが記されています。後半は、調布・狛江・三鷹・稲城・府中市のエリアの文化情報誌である「武蔵野くろす★とーく」の連載をまとめたもので、地域での活動の紹介を中心とする内容です。武者小路実篤への思い、戦争体験を語り継ぐ決意と活動、地域の子どもの食堂などについてのエッセイなどが含まれています。

2020年に新型コロナウイルスのパンデミックが始まって以来、さまざまな活動が停滞するなか、山花さんがいち早く活動の記録を出版されたことに驚きました。山花さんの思いと活動の様子が伝わってきて、読後に元気がもらえる1冊です。

(文責：須賀千絵)



山花郁子さん



短期大学部図書館学課程「図書館概論」

短期大学部図書館学課程では、入門科目である「図書館概論」中で、毎年、新生に「読書と図書館」というテーマでエッセイを書いてもらっています。そして、このエッセイを集めて『読書の楽しみと図書館』という小冊子を刊行しています。この小冊子の製作は、松尾先生の時代から続く短大図書館学課程の伝統といえるものです。

2022年も、学生たちは慣れないエッセイの執筆に四苦八苦しながらも、自分らしい文章を書きあげました。エッセイのタイトルは「わたしと本」、「本と人生観」、「図書館と私の歩み」など様々で、内容も幼い頃の家庭での読書の情景や、中学高校時代の学校図書館や公共図書館との関わり、図書館学課程を履修する抱負までバラエティに富んでいます。この小冊子は実践女子大学図書館に所蔵されています。ぜひお手にとってみてください。(文責：橋詰秋子)



新任助手からの挨拶と抱負

大学図書館学課程助手

城倉 芽衣

2022年4月より大学図書館学課程の助手に着任しました城倉芽衣と申します。

私はこれまで、幼稚園教諭と自治体の事務職員として業務を行ってまいりました。その経験を踏まえて、学ぶ場で働きたい、学生や先生をサポートする仕事に就きたいと思い、実践女子大学助手の公募を見つけたところから、素敵なお縁をいただきました。

助手の仕事では学生の窓口対応や先生が授業で使用する資料の準備や運搬、事務等を行っています。図書館学課程については勉強中ですが、毎日新しいことが知れるので楽しいです。また、先生方から学生の積極的な姿勢を聞けたり、学生たちからも

顔を覚えていただけたりと様々な場面で日々やりがいを感じています。大学は学生生活を過ごす最後の場となり、授業の他にも課外活動や学内イベントなど楽しみながらも日々頑張る学生たちの姿を見て元気をいただいております。時には、不安に感じることや悩むこともあるかと思います。そのような時に悩みに寄り添い、話しやすい存在として不安を解消できるよう、少しでも力になれたらなと思っています。

まだ新米助手ですが、学生たちや先生方から頼られる存在になれるよう尽力いたします。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。



INFORMATION

【卒業生】

山花郁子『コロナ時代を生きる 九十歳 記憶の糸車』オリオン出版, 2021, 198 p.

【教員：非常勤・専任】

岩瀬 梓「大学生の学習における情報メディアに対する意味付け」『Library and Information Science』85, 2021, p. 1 - 22.

岩瀬梓先生（「図書館情報技術論」ご担当）は、上記の論文により、2021年度三田図書館・情報学会賞を受賞されました。おめでとうございます。

近藤牧子・松倉紗野香・山中信幸「持続可能な開発に向けた教育ファシリテーションに対する教師の問題意識と学習観点：教育方法観の変容分析をもとに」『国際理解教育』28, 2022, p. 3 - 12.

近藤牧子「SDG 4をめぐる国際的動向と参加・包摂（共生）・シティズンシップ」『社会教育学研究』57, 2021, p. 56 - 58.

小川三和子「学校図書館の評価」『学校図書館』855, 2022, p. 25 - 27.

新藤 透『古代日本に於ける「図書館」の起源』樹村房, 2022, 328 p.

新藤 透「地方改良運動で「優良」とされた通俗図書館の実像：埼玉県比企郡八和田村私設千野図書館を中心に」『國学院大學紀要』60, 2022, p. 29 - 54.

白戸満喜子「料紙の白色度と青色繊維：料紙観察からの試論」『和紙文化研究』(28), 2022, p. 48 - 60.

村上郷子「専門図書館の現状を探る：大学生による現地調査をてがかりに」『法政大学資格課程年報』11, 2021, p. 5 - 15.

村上篤太郎「『日本十進分類法』（新訂10版）のすすめ（第12回）固有補助表について（その4）」『日本農学図書館協議会誌』(206), 2022, p. 8 - 18.

松本美智子「学校図書館活用における教員・司書教諭・学校司書の協働構築に関する研究：組織論の視点から」（2022年度筑波大学図書館情報メディア研究科 博士論文）

松本美智子先生（「学習指導と学校図書館」他ご担当）は、上記の論文により、筑波大学大学院から博士（図書館情報学）の学位を授与されました。おめでとうございます。

伊藤真理・野口武悟・安藤友張「地方自治体が求める学校司書の人材像：規程等の分析を通して」『愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要』9, 2022, p. 23 - 38.

須賀千絵「サッチャー政権下の英国公共図書館政策」『実践女子大学文学部紀要』64, 2022, p. 69 - 84.

橋詰秋子「司書養成課程の教育における「現実世界のタスク」の有効性：分類法演習の授業報告」『実践女子大学短期大学部紀要』43, 2022, p. 85 - 93.

谷口祥一・橋詰秋子「記述規則 NCR 2018 の RDF データ化」『Library and Information Science』87, 2022, p. 1 - 23.

卒業生の方々のご活躍を本欄でお伝えしています。卒業生の皆様の中で、雑誌記事・論文、図書などを執筆・刊行された方がいらっしゃいましたら、図書館学課程までお知らせください。

JLSニュースレター No.14

2023年3月1日 Jissen Librarianship の会

編集・発行：実践女子大学図書館学課程／実践女子大学短期大学部図書館学課程

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49 e-mail: lis@jissen.ac.jp